

茶 業 研 究 所

I 基本方針

本県の茶業は、比較的平坦で、経営体ごとの生産規模が大きい球磨、菊池地域や、傾斜地で経営体ごとの規模が小さい上益城、鹿本、八代、芦北地域など、県全域に様々な歴史や特色をもった茶産地が分布しており、中山間地域における重要な作目となっている。茶種としては、蒸し製玉緑茶、煎茶、釜炒り茶が主に生産されており、特に蒸し製玉緑茶は全国生産量の2割以上を占め、県内を中心に、全国の主要茶種である煎茶よりも高値で流通している。また、県産茶の栽培面積及び生産量は長期的な減少傾向にあるが、現在も全国有数の茶生産県として重要な位置を占めている。

県内茶栽培における主力品種は、近年、「さえみどり」など製茶品質の高い品種への改植が進んでいるものの、依然として「やぶきた」が茶園面積の約7割を占めている。また、樹齢30年を経過した茶園が約4割を占めるなど、「やぶきた」偏重による作業の集中化、茶樹の高樹齢化による生産性の低下などが問題となっている。

このような背景の中、令和6年1月に本県初のオリジナル茶品種「熊本TC01」が品種登録された。「熊本TC01」は「やぶきた」よりも収量や荒茶品質が優れることから、今後関係機関と連携して早期の普及に取り組む必要がある。

一方、長らく低迷していた茶価は、近年の世界的な抹茶ブームによる需要拡大と、日本国内の供給力の低下を背景に、大幅に上昇している。しかしながら、生産資材の価格高騰は依然として生産者の経営を圧迫しており、生産者数の減少や後継者不足による担い手の高齢化といった構造的課題は解消されていない。

こうした状況の中、本県茶業を維持していくためには、高品質化によるくまもと茶のブランド力強化や、インバウンド等多様化するニーズに対応した茶種の開発、中山間地域での経営安定化に向けた省力・低コスト技術の開発が求められている。

II 重要研究事項

1 くまもと農業の未来発展につながる新品种の開発・選定

本県初のオリジナル品種「熊本TC01」について、被覆特性を活かした蒸し製玉緑茶及び碾茶等生産技術の確立、温暖化に対応した整枝技術の開発等に取り組み、新品种を活用した県産茶の競争力向上を図る。

また、稼げる茶業の推進を図るため、近年、国内外で需要が高まっている抹茶や機能性を高めたお茶、香りに特徴があるお茶など、多様化する消費者の嗜好に対応し付加価値を高めた新たな茶種の生産技術を開発する。

2 生産性の向上を目指した革新的な生産技術の開発

茶の生産に必要な肥料、燃油等の資材費や、老朽化する製茶機械の修繕など加工施設の維持費等のコストは高い水準が続いており、茶業経営を強く圧迫している。また、中山間地において、茶は重要な経済作物となっているが、大型機械の導入が困難な中山間地域では作業効率が低く、茶業経営の継続が困難な経営体が増加傾向にある。

このため、新たな茶種であるCTC緑茶の生産による生産コスト削減技術の開発や、省力化のための新たな茶園管理体系の確立、スマート農業技術を活用した効率的な茶園管理技術の開発を行う。

また、緑茶等の高品質生産に向けて、従来の官能審査に代わる客観的数値による品質評価技術を開発する。

3 環境にやさしい農業を推進する技術の開発

有機栽培茶の需要は年々高まり、県内でも有機栽培を志向する生産者は増えている。

「熊本TC01」は、収量性や品質の良さから、茶関係者からの評価も高く、オリジナルブランド確立に向けて期待が高い。そこで「熊本TC01」の病虫害、土壌に対する特性を明らかにし、「熊本TC01」を活用した有機栽培体系の確立を図る。

Ⅲ試験研究課題一覧

【茶業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
茶業	1. くまもと農業の未来発展につながる新品種の開発・選定	新規 (1) 県育成茶品種「熊本ＴＣＯ１」の普及拡大に向けた生産技術の開発	1,536	県単	① 「熊本ＴＣＯ１」の被覆特性を活かした蒸し製玉緑茶及び碾茶等生産技術の確立 ② 温暖化に対応する「熊本ＴＣＯ１」の整枝技術の確立	R8～R10 R8～R10
		(2) 茶の系統適応性検定	900	外部資金	① 茶系統適応性検定試験	H29～継続
	2. 生産性の向上を目指した革新的な生産技術の開発	(1) 高品質生産に向けた緑茶品種の滋味特性の解明	2,181	県単	① 味覚センサーを用いた客観的品质評価技術の確立 新規 ② 味覚センサーを用いた主要茶品種の滋味特性の解明	R7～R8 R8～R9
		完了 (2) 脱炭素化に向けた緑茶製造におけるエネルギー効率向上技術の開発	農業技術課	令達	① ＣＴＣ緑茶製造システムにおける製造工程別エネルギー効率の解明 ② ＣＴＣ緑茶製造システムを使用した燃料消費量削減技術の開発	R7～R8 R7～R8
		(3) 中山間地域における省力・低コスト化のための年１回収穫茶園管理技術の確立	758	県単	① 年１回収穫のための整剪枝体系の確立 ② 年１回収穫のための防除体系の確立 ③ 年１回収穫のための施肥体系の確立	R7～R9 R7～R9 R7～R9
		新規 (4) ドローンを活用した省力茶園管理技術の確立	1,004	県単	① ドローンによる病虫害防除効果の解明 ② ドローンによる施肥方法の検討 ③ ドローンによる茶の作業省力効果の評価	R8～R10 R8～R10 R9～R10
	3. 環境にやさしい農業を推進する技術の開発	(1) 茶の病虫害予察	農業技術課	令達	① 病虫害発生予察調査	S40～継続
		完了 (2) 茶品種「熊本ＴＣＯ１」の有機栽培体系下における品種特性の解明	農業技術課	令達	① 「熊本ＴＣＯ１」の有機栽培防除体系下における品種特性の把握 ② 「熊本ＴＣＯ１」の有機栽培施肥体系下における品種特性の把握	R7～R8 R7～R8

注) **新規** : 本年度から新たに取り組む課題

組替 : 課題設定時の課題を組み替えて設定する課題

延長 : 課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

繰上 : 課題設定時に設定した年度より早く、今年度完了する課題

完了 : 本年度で完了する課題

中止 : 今年度中止する課題